

研究主題 **高等学校における道徳的実践意欲を高める
情報モラル指導の在り方に関する研究**

【研究担当者】 情報・産業教育担当 大懸 慈人

【この研究に関する問い合わせ先】

Tel 0198-27-2254 FAX 0198-27-3562

E-mail johor@center.iwate-ed.jp

I 研究の目的

スマートフォンなどインターネットに接続可能な情報端末が急速に普及している現在、青少年の間でソーシャルネットワークワーキングサービス（SNS）へのいたずら画像のアップロードや、コミュニケーションツールによるいじめなどが問題になっています。

本研究は、こうした状況を改善するために、高等学校の道徳教育の一環として、インターネットにおける情報の発信と受信の際に必要な道徳的判断力や道徳的心情の在り方について、生徒が考えを深めることのできる教材を作成し、その活用を通して生徒の道徳的実践意欲を高める指導に役立てようとするものです。

II 教材作成の配慮事項

「情報モラル指導者研修ハンドブック」（文部科学省・財団法人コンピュータ教育開発センター、2010）によると、情報モラル指導は、相手を思いやり情報発信に責任を持つ、ルールやマナーを守るといった「心を磨く」領域と、情報社会の特性の理解、情報と安全に向き合う方法といった「知恵を磨く」領域の2領域に分けられています。

また、高等学校学習指導要領解説総則編には、「道徳性」とは、「道徳的心情」、「道徳的判断力」、「道徳的実践意欲と態度」から構成されており、その中でも「道徳的実践意欲」とは、「道徳的心情や道徳的判断力を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働き」とであると述べられています。

本研究では、情報モラル指導の「心を磨く」領域の視点に立って、インターネットでの情報の発信と受信の際に求められる、人間としての善を志向する感情である「道徳的心情」や、善悪を判断する「道徳的判断力」について生徒が考えを深めることができる読み物資料とこれを用いた授業の展開例を作成します。

III 授業実践

1 授業計画

授業実践では、SNS におけるいたずら画像の発信を題材として扱った読み物資料と展開例の他に、読み物資料のマンガ版を用意し、生徒の興味・関心の向上を図りました。また、生徒に情報端末を配付し、情報モラル指導用教材「情報サイト」の掲示板を活用して意見交換を行いました。掲示板を用いることで、短時間で全員の意見を共有できることや、匿名で入力することにより、口頭での発表が苦手な生徒でも自分の考えを自由に表出できることが期待されます。

2 検証計画

本研究では、事前アンケートと授業実践の中で、「メールや SNS、動画サイトなど、インターネット上に情報を発信するとき心がけていることや、注意していること」について発問を行い、それぞれに生徒が記述した内容を比較して、道徳的心情と道徳的判断力の変容を調べました。なお、生徒の道徳的心情と道徳的判断力の変容をみる基準を定め、検証しました。

I.

ぼくは高校2年生。中2のときに始めたギターにはまり、部活が終わってから仲間と練習をしている。親はバンドをやっていることをあまりよくは思っていない。だけど、勉強、部活、バンドとできるだけ両立するように努力しているため、あまりうるさくは言われない。今のギターは先輩からもらったもので、もう4年も使っている。色がはげたりネックが曲がってきた

りして、かなり年季がはいってきた。秋に開くコンサートのために、新しいギターが欲しい。夏休みにアルバイトしてお金を貯めようと思っていたが、親には猛反対されてもめた。最終的には、夏休み中、週4日4時間、19時までに家に帰ることで何とか親が許してくれた。欲しいギターには手は届かないが、条件をのんだ。

次の週から、コンビニのアルバイトを始めた。はじめは掃除、商品の陳列から教わった。人が少ないときはレジを打つことも教えてもらった。店長さんをはじめ働く人たちはとてもいい人で、何でも優しく教えてくれた。

そんなある日、バイト先の先輩で大学生のゆうきさんに、

「サークルの行事が入ったからシフト変わってくれない？」と、言われた。

帰りの時間がいつもより少し遅くなるから、その日だけ親に許可を取った。ゆうきさんには、

「店長にはオレから言っておくから、サンキュー」と、言われた。

そのシフトを変った日は、あきらさんとペアだった。あきらさんは、ぼくより一つ上の先輩だ。あきらさんとは仲もよく、学校のことや勉強のことをメールで相談したり、遊びに行ったりすることもある。その日の夕方はかなり人が多く、店は賑わっていた。しかし、時間が経つにつれ人もまばらになり、一通り仕事が終わったところで、二人で休憩時間に入った。

休憩時間、事務室は二人きりで、備え付けのドリンクと、消費期限の切れたホットスナックが置いてあった。二人は飲食しながら学校の話で盛り上がった。

しばらくするとあきらさんが、

「そうだ、二人で写真撮ろうよ。」と、言った。

スマホを持ち出し、バイト先の制服姿で2ショット写真を何枚も撮った。さらに悪ふざけをして、ホットスナックをほおぼる仕草でポーズした。

その日のバイトが終わり家に帰った。夕食を食べ、勉強しようと思った瞬間、スマホが鳴った。あきらさんからだと直感でわかった。メールには写真が何枚か添付されていた。本文の最後にはリンクがあった。それはあきらさんの SNS だった。そのリンクをタップすると画面にはホットスナックをほおぼる2ショット写真が写っていた。ぼくは、「あっ」と思った。

II.

その写真は瞬く間に広がり、SNS で批判を浴びた。

「この制服、コンビニの〇〇〇だよね。」

「店の品物勝手に食べていいの？」

「店員がこんなことしていいのか。」

「店員の教育、なってないんじゃないの。」

.....

.....

.....

「この店員のいるコンビニ、〇〇〇の△△△店だよ。」

「こんなふざけた店員のいる店、絶対行かない。」

2時間後、あきらさんの SNS から写真は削除されたが別のサイトで調べると同じ画像がアップされていた。

次の日、ぼくとあきらさんは店長に呼ばれた。事情を説明し、厳しく注意を受けた。今回のことでどれだけ店が影響を受けたか、後で店長から親に連絡するといわれた。こうして、ぼくの夏休みのバイトは終わった。

【資料2】展開例

時間	学習内容	学習活動と主な発問	指導上の留意点等
導入 5分	1. アップロードされた画面の客観的な印象を考える。	<p>〔生徒への発問〕 アップロードされた画像を見て、客観的にどんな印象を受けるか。</p> <p>○口頭で意見を述べる。</p>	<p>○アップロードされた画像(イラスト)を表示</p>  <p>【予想される意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しそう ・仲が良さそう など
展開 30分	2. 読み物資料(マンガ版)を読み、物語の背景を理解する。	○読み物資料(マンガ版)を読む。	○読み物資料(マンガ版)を配付する。

.....〈以下略〉.....

【資料3】補助資料(読み物資料マンガ版 制作:岩手県立盛岡北高等学校2年 梅野咲優さん)



【表 1】 SNS の活用における道徳的判断力と道徳的心情の変容の検証基準

検証内容	変容の検証基準
道徳的判断力	「(正しい行動を) 判断すること」や「(自分の行動がどのような結果につながるかを) 予想すること」に関する内容を記述している。
道徳的心情	「相手の気持ちを考えること」や「相手の立場を考えて行動すること」に関する内容を記述している。

IV 授業実践結果

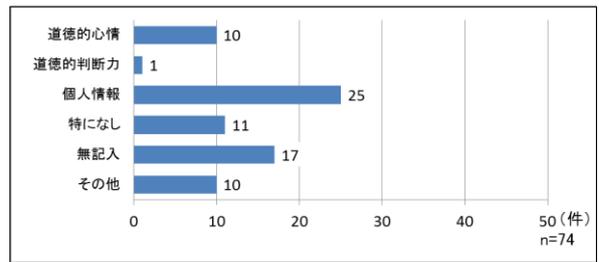
事前アンケートの結果、今回調査した高校生のうち 90.8%が SNS を利用していました。また、SNS を利用している生徒全員が LINE を利用していると回答し、LINE の次に利用者の多かった Twitter は、73.9%の生徒が利用していると回答しました。

事前アンケートと授業実践で、「メールや SNS、動画サイトなど、インターネット上に情報を発信するとき心がけていることや、注意していること」について質問した結果、事前アンケートの記述【図 1】で最も多かったのが「個人情報」に関する記述の 25 件でした。なお、「道徳的心情」に関する記述は 10 件で、「道徳的判断力」に関する記述は 1 件のみでした。

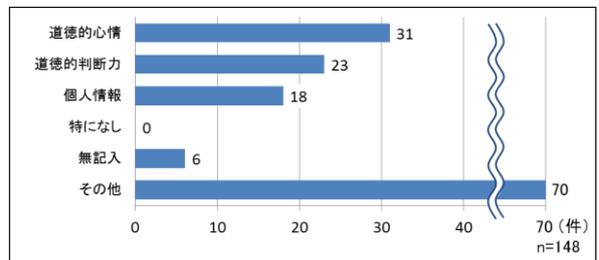
また、授業実践の記述【図 2】では、「道徳的心情」に関する記述が 31 件、「道徳的判断力」に関する記述が 23 件と、いずれも事前アンケートの件数から大きく増加しました。

なお、生徒が記述した総数は、事前アンケートの 74 件から授業実践の 148 件に増加しており、「道徳的心情」や「道徳的判断力」に関わる内容以外にも、情報モラルにおける「心を磨く領域」と「知恵を磨く領域」に関する多くの回答が得られました。

「道徳的心情」または「道徳的判断力」について記述した生徒を「+」、記述していない生徒を「-」とし、授業実践の事前、事後での人数の変化を【表 2】に示しました。授業実践を通して「-」から「+」に変容した生徒は 32 名で、事前アンケートで「-」だった生徒の 50.8%でした。「+」の生徒数に着目すると、授業実践前の 11 名から授業実践後には、39 名に大きく増加しました。今回作成した教材を用いた授業実践を通して、多くの生徒で道徳的心情と道徳的判断力に対する意識の向上がみられました。



【図 1】事前アンケートで記述された内容



【図 2】授業実践で記述された内容

V 研究のまとめ

本研究により、情報モラル指導における高校道徳の進め方として、道徳性を養うための指導方法を検討し、教材を開発することができました。また、教材を活用した授業実践を通して、インターネット上で情報発信する際の、道徳的判断力や道徳的心情に対する意識を高めるとともに、これらを基盤とする道徳的実践意欲を高めることができました。今後の課題として、SNS 以外の情報社会の諸問題を題材に扱った教材や、情報社会の問題とされる部分だけでなく、情報社会が人々にもたらした恩恵を題材に扱った教材の充実を検討します。

【表 2】 授業実践を通じた道徳的心情及び道徳的判断力の変容 (n=74)

		事後	
		—	+
事前	— (64名)	31	32
	+	4	7

※本研究で作成した、読み物資料と展開例は総合教育センターWeb ページにて公開しています。
岩手県立総合教育センターWeb ページ <http://www1.iwate-ed.jp/index.html>